

# 局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

<b>局名</b>	総務市民局
-----------	-------

<b>基本計画</b>	柱 暮らしを彩る
	大項目 活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組みの方針 地域活動の促進

担当局 / 総務担当課名	総務市民局	総務課
連絡先	093 - 582-2102	

21年度計画

-3-(1)-

<b>施策名</b>	市民主体の地域づくりの促進
------------	---------------

<b>施策の概要</b>	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域総括補助金の拡充などにより、まちづくり協議会を中心としたネットワークを構築し、まちづくり協議会が相互に情報を共有して交流できる場を設けるなど、区・市レベルで支える地域づくりを進めます。また、自治会・町内会への加入率の向上や自治会・町内会単位での支えあいの活動を支援します。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	地域活動の促進

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		平成21年度	目標値		
		年度	平成20年度		計画	年度	平成25年度
地域総括補助金を導入したまちづくり協議会の割合	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会の割合は住民主体の地域づくり活動状況を把握する目安となるため成果指標として設定しました。目標値は全てのまちづくり協議会を導入することを目標としました。	年度	平成20年度	計画	-	年度	平成25年度
		現状値	72.60%	実績	80.9 %	目標値	100%
				達成度	- %		
まちづくり専門家派遣回数	まちづくり専門家派遣回数は地域団体やNPOによる地域活動の状況を把握する目安となるため成果指標として設定しました。目標値は過去3年間平均回数の倍増を目標としました。	年度	平成20年度	計画	-	年度	平成25年度
		現状値	12回	実績	7 回	目標値	30
				達成度	- %		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]			事業費	330,585 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
				うち一般財源	325,655 千円	57,090 千円	

## 局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
	<b>B</b>	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会の割合は一定の増加をしており、最終年度の目標に向けて順調に推移しています。一方まちづくり専門家派遣については、平成21年度は計画的な広報活動を行っていなかったこともあり、前年度より5回の減少となっています。このため、今後は周知・広報を見直し、最終年度の目標値を目指す必要があります。各事業の進捗状況も概ね良好であり、各区で実施されている「区の新たな魅力づくり事業」は、地域の特色を活かした地域づくりに貢献していると考えます。しかしながら、全国的に自治会・町内会加入率の低下、地域コミュニティの崩壊等が問題視されており、北九州市においても同様な状況です。
今後の局施策の方向性	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会の割合は、着実に増加をしており、今後も引き続き積極的に地域に働きかけを行っていきます。同時に、まちづくり専門家派遣制度の周知、広報も積極的に行い、利用の促進に努めていきます。自治会・町内会加入率の向上や、地域活動の活性化に向け、今後とも工夫を重ね取り組みを図ってまいります。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

## 評価担当部署の意見

適切な評価  下記のとおり

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

施策名 市民主体の地域づくりの促進

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
コミュニティ活動促進事業(まちづくり専門家派遣事業)			210 千円	1,260 千円	裁量経費			ア	
事業費のうち一般財源			210 千円						
コミュニティ活動促進事業(校区まちづくり<企画・実践>事業)			1,118 千円	1,635 千円	裁量経費			ア	
事業費のうち一般財源			1,118 千円						
コミュニティ活動促進事業(自治会・町内会活性化事業)			722 千円	1,635 千円	裁量経費			ア	
事業費のうち一般財源			722 千円						
地域総括補助金			269,211 千円	4,020 千円	裁量経費			ア	
事業費のうち一般財源			269,211 千円						
区の新たな魅力づくり事業(門司区)			8,000 千円	9,300 千円	重点経費			ア	
事業費のうち一般財源			8,000 千円						
区の新たな魅力づくり事業(小倉北区)			12,180 千円	8,685 千円	重点経費			ウ	
事業費のうち一般財源			7,650 千円						
区の新たな魅力づくり事業(小倉南区)			6,600 千円	3,945 千円	重点経費			ウ	
事業費のうち一般財源			6,600 千円						
区の新たな魅力づくり事業(若松区)			6,751 千円	13,050 千円	重点経費			ウ	
事業費のうち一般財源			6,751 千円						
区の新たな魅力づくり事業(八幡東区)			7,999 千円	4,170 千円	重点経費			ア	
事業費のうち一般財源			7,599 千円						
区の新たな魅力づくり事業(八幡西区)			10,834 千円	1,890 千円	重点経費			ア	
事業費のうち一般財源			10,834 千円						

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
区の新たな魅力づくり事業(戸畑区)			6,960 千円	7,500 千円	重点経費			ウ	
11 事業費のうち一般財源			6,960 千円						

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
		330,585 千円
施策全体の事業費のうち一般財源	325,655 千円	

局施策の 21年度評価
B

【局施策評価】  
A:大変良い状況にある  
B:概ね良い状況にある  
C:概ね良い状況とまでは言えない  
D:不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	総務市民局	地域振興課
連絡先	582-2111	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組みの方針	地域活動の促進
	主要施策	市民主体の地域づくりの促進

関連計画	
事業期間	
経費区分	裁量経費

-3-(1)-

事業名	コミュニティ活動促進事業(まちづくり専門家派遣事業)
-----	----------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	自治会・町内会、まちづくり協議会などの地域団体やNPO等で構成員が10名以上の団体が、住民を対象としたまちづくりのための研修会や講演会、ワークショップ、シンポジウム等を開催する場合、講師としてまちづくりの専門家を派遣することにより住民主体の地域づくりを促進しています。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民主体の地域づくりの促進	成果	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会の割合 まちづくり専門家派遣回数	

目的実現の為に実施する内容	実施工程						計画変更理由		
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度			
実施状況	当初計画	-	まちづくり専門家派遣回数 13回 広報活動件数 272団体	19回 750団体	25回 750団体	30回 750団体	▶ ▶ ▶ ▶		
	現状	まちづくり専門家派遣回数 7回 広報活動件数 138団体	13回 272団体	19回 750団体	25回 750団体	30回 750団体			
	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)							平成21年度	
	まちづくり専門家派遣回数							計画	-
地域団体やNPO等が求めるニーズに対応できるよう人材(専門家)の発掘など制度の充実を図ることにより、まちづくり専門家派遣回数の増加を図ります。						実績	7回	内容	30回
市民への広報活動件数						達成度	-	年度	平成25年度
地域団体やNPO等に事業を活用してもらうために、案内チラシを配布するなど周知・広報活動を実施します。						計画	-	内容	750団体
地域団体やNPO等に事業を活用してもらうために、案内チラシを配布するなど周知・広報活動を実施します。						実績	138団体		
達成度						-	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]					事業費	210千円	事業にかかった人件費の目安(21年度) 1,260千円	
						うち一般財源	210千円		
単年度計画	(この欄は空欄で構いません)								

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 平成21年度は計画的な広報活動を行っていなかったこともあり、派遣回数が7回で前年度より5回の減少となっています。このため、平成22年度は地域団体やNPO等に対して周知・広報を積極的に進めます。
------	---

【事業の再検証】																	
評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;"> <b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。                 </td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: center;">3</td> <td>まちづくりの専門家を過去10年間で200回以上派遣しており、この事業を通じて地域団体やNPO等は地域づくり計画や実践に関するノウハウの取得など着実に力をつけており、施策の実現に向けて効果をあげています。</td> </tr> <tr> <td> <b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。                 </td> <td style="text-align: center;">4:高い 3:やや高い</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>講師への謝礼金(旅費込み)は3万円、派遣回数も同一団体に対し年度内に最大3回までとするなど経済性・効率性に配慮しながら実施しています。</td> </tr> <tr> <td> <b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。                 </td> <td style="text-align: center;">2:やや低い 1:低い</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>地域総括補助金制度を活用した地域活動をサポートする事業として、今後も積極的に実施していく必要があります。</td> </tr> <tr> <td> <b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。                 </td> <td></td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>様々な分野のまちづくり専門家の派遣要請に対して、地域ニーズにあった専門家の派遣により地域活動を支援する必要があることから、実施主体は市が適当だと考えます。</td> </tr> </table>	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。		3	まちづくりの専門家を過去10年間で200回以上派遣しており、この事業を通じて地域団体やNPO等は地域づくり計画や実践に関するノウハウの取得など着実に力をつけており、施策の実現に向けて効果をあげています。	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4	講師への謝礼金(旅費込み)は3万円、派遣回数も同一団体に対し年度内に最大3回までとするなど経済性・効率性に配慮しながら実施しています。	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	地域総括補助金制度を活用した地域活動をサポートする事業として、今後も積極的に実施していく必要があります。	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	様々な分野のまちづくり専門家の派遣要請に対して、地域ニーズにあった専門家の派遣により地域活動を支援する必要があることから、実施主体は市が適当だと考えます。
<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。		3	まちづくりの専門家を過去10年間で200回以上派遣しており、この事業を通じて地域団体やNPO等は地域づくり計画や実践に関するノウハウの取得など着実に力をつけており、施策の実現に向けて効果をあげています。														
<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4	講師への謝礼金(旅費込み)は3万円、派遣回数も同一団体に対し年度内に最大3回までとするなど経済性・効率性に配慮しながら実施しています。														
<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	地域総括補助金制度を活用した地域活動をサポートする事業として、今後も積極的に実施していく必要があります。														
<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	様々な分野のまちづくり専門家の派遣要請に対して、地域ニーズにあった専門家の派遣により地域活動を支援する必要があることから、実施主体は市が適当だと考えます。														
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了																

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

担当局/課	総務市民局	地域振興課
連絡先	582 - 2111	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組みの方針	地域活動の促進
	主要施策	市民主体の地域づくりの促進

関連計画	
事業期間	
経費区分	裁量経費

-3-(1)-

事業名	コミュニティ活動促進事業(校区まちづくり<企画・実践>事業)
-----	--------------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	平成18年度からまちづくり協議会が実施する地域づくりの目標や活動計画等からなる「まちづくり計画」を策定する活動(企画事業・助成額: 1団体あたり15万円を限度)や地域課題の解決を図る活動(実践事業・助成額: 1団体あたり20万円を限度)に対して助成しています。この補助金の活用により、地域団体の連携・協力を図り、地域が一体となった住民主体の地域づくりを促進します。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民主体の地域づくりの促進	成果	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会の割合 まちづくり専門家派遣回数

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	-	校区まちづくり 実践 事業 実施団体数 105団体	110団体	116団体	122団体		→	
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		校区まちづくり 実践 事業を実施するまちづくり協議会の団体数						計画	-	年度
		地域総括補助金の補助項目の一つとして交付しているもので、補助金制度を導入しているまちづくり協議会のうち9割以上が校区まちづくり<実践>事業を活用したまちづくり活動を行うよう働きかけを行います。						実績	94 団体	内容
								達成度	-	%
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度: 執行額]						事業費	1,118 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)	
							うち一般財源	1,118 千円	1,635 千円	
単年度計画	-									

**【事業の実施結果・進捗状況の確認】**

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年度は祭り等のイベントや子育て支援、環境保全・美化活動など地域課題に応じた様々な活動を行う94団体に校区まちづくり 実践 事業の助成金を交付することにより、住民主体の地域づくりに寄与しています。
------	-------------------------------------	---

**【事業の再検証】**

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業の開始以来、助成団体は年々増加しています。この事業を通じて地域全体で活動に取り組む体制が整ったことやまちづくり計画等に基づき計画的な活動を行うようになったことなど、施策の実現に向けて効果をあげています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	助成額は1団体あたり20万円を限度としていることから、地域では自主財源の確保に努めるなどコスト意識を持って事業に取り組んでおり、助成金額以上の事業効果が得られています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	地域総括補助金の補助項目の一つとして、本事業は地域団体間の連携強化や地域活動の活性化に必要な事業であり、本事業を実施しないと地域活動が停滞するおそれがあることから、今後も積極的に実施していく必要があります。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	地域団体が住民主体の地域づくりを進めるためには活動の財源確保が必要不可欠であり、財源不足により地域活動に支障をきたさないよう市が活動費について支援することは必要であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了  本事業は施策に対する有効性も高く、「市民主体の地域づくりの促進」を図っていくうえで重要な事業であると考えています。今後も引き続き、目標の達成に向けて着実に取り組んでいきます。

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	総務市民局	地域振興課
連絡先	582-2111	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組の方針	地域活動の促進
	主要施策	市民主体の地域づくりの促進

関連計画	
事業期間	
経費区分	裁量経費

-3-(1)-

事業名	コミュニティ活動促進事業(自治会・町内会活性化事業)
-----	----------------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域コミュニティの中心的な役割を担う自治会・町内会活動の活性化や加入促進に向けた広報などの支援を行うことで住民主体の地域づくりを促進します。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民主体の地域づくりの促進		成果	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会の割合
						まちづくり専門家派遣回数

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
			-	広報活動件数(実施事業数) 6事業	11事業	11事業	11事業		▶	
		現状	-	広報活動件数(実施事業数) 6事業	11事業	11事業	11事業	▶		
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		自治活動の活性化及び自治会加入促進に向けた市民への広報活動件数(実施事業数)					計画	-	年度	平成25年度
		地域への愛着や帰属意識が薄れる中、活動の活性化及び自治会加入促進に向けて、さらなる広報・啓発が必要である。今後、広報活動の強化に向け、「広報誌の活用」、「インターネットの利用」、「イベントを活用した啓発」などさまざまな広報の手段・機会ごとに効果的な2~3事業を毎年実施していく。					実績	4 事業	内容	11事業
							達成度	-	%	
						計画		年度		
						実績		内容		
						達成度	%			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]					事業費	722 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
						うち一般財源	722 千円	1,635 千円		
単年度計画	-									

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。  平成21年度は自治会加入促進チラシの作成・配布や市指定ごみ袋の広告欄を活用した広報などを実施しました。また、各区においても独自に啓発グッズなどの作成を行いました。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	自治会加入促進チラシの作成・配布など本事業の実施を通じて、自治会・町内会活動に対する理解が図れ自治会加入に繋がるなど、施策の実現に向けて有効性は高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	自治会加入促進チラシは自治会・町内会組織を活用して配布するなど、効果的・効率的に事業を行っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	地域への愛着や帰属意識が希薄化するとともに、コミュニティ機能が弱体化する中で、自治会加入率が低下傾向にあることから、今後も本事業を積極的に実施していく必要があると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	自治会・町内会活動は、住民主体の地域づくりに欠かせないものであり、市政運営上も自治会・町内会の活性化は大変重要であると考えていることから、実施主体は市が適当だと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。  ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	本事業は施策に対する有効性も高く、「市民主体の地域づくりの促進」を図っていくうえで重要な事業であると考えています。今後も自治組織の活性化と自治会加入促進に向け、市自治会総連合会の自主事業である自治会勉強会の検討結果も踏まえて、広報活動等に積極的に取り組むこととします。

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	総務市民局	地域振興課
連絡先	582-2111	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組みの方針	地域活動の促進
	主要施策	市民主体の地域づくりの促進

関連計画	
事業期間	
経費区分	裁量経費

-3-(1)-

事業名	地域総括補助金
-----	---------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	平成16年度から市の各部署が事業ごとに地域団体に交付していた防犯犯設置・維持管理や公園愛護、青少年体育育成、健康づくり事業等13項目の補助金を可能な限り一本化した「地域総括補助金」をまちづくり協議会に交付しています。この補助金の活用により、地域団体の連携・協力を図り、地域が一体となった住民主体の地域づくり・まちづくりを促進します。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民主体の地域づくりの促進	成果	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会の割合 まちづくり専門家派遣回数

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	地域総括補助金導入 まちづくり協議会 110団体	116団体 (85.9%)	122団体 (90.4%)	128団体 (94.8%)	135団体 (100.0%)		135団体 (100.0%)	
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数						計画	年度	平成25年度
		まちづくり協議会に対して地域総括補助金の制度導入と継続的な制度活用の働きかけを行います。また、地域にとって使いやすい制度となるよう改善を図るため、「改善プロジェクト会議」を設置し検討を行います。						実績	110 団体	内容
								達成度	-	135団体 (100%)
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度・執行額]						事業費	269,211 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)
								うち一般財源	269,211 千円	4,020 千円
	単年度計画	(この欄は空欄)								

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年度の地域総括補助金制度を導入しているまちづくり協議会は110団体で前年度より12団体の増加となっています。今後も区まちづくり推進課と連携して計画的に導入団体の増加を図っていきたく考えています。また、さらなる制度の仕組みや事務手続きなどの改善を図るため、「改善プロジェクト会議」を設置し検討を進めています。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	従来は各部署から縦割りで補助金が交付されていたため、各団体の活動も縦割りとなり、団体間の連携を阻害していました。制度の導入により、補助対象事業費の50%まで流用が可能のため、他の事業に充当することができることや補助対象の中の事業を実施する団体が無い場合でもまちづくり協議会として実施する場合は補助金が受けられることなど施策の実現に向けて効果をあげています。
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	従来は各地域団体が個別に活動していたため、活動が重複し非効率な面がありましたが、制度の導入により効果的・効率的な地域活動が行われています。また、申請時に提出する書類を減らすとともに、記載事項も少なくするなど申請書類を簡素化し、事務負担の軽減を図っています。
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	本事業は地域団体間の連携強化や地域活動の活性化に必要な事業であると考えており、本事業を実施しないと地域活動が停滞するおそれがあります。また、平成25年度に全てのまちづくり協議会が制度を導入するよう計画的で着実な取組みを進めていく必要があります。
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	地域団体が住民主体の地域づくりを進めるためには活動財源の確保が必要不可欠ですが、地域の自主財源の確保には限度があります。地域活動を促進するうえで市が活動費を支援することは必要であると考えており、実施主体は市が適当だと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	本事業は施策に対する有効性も高く、「市民主体の地域づくりの促進」を図っていくうえで重要な事業であると考えています。今後も、目標の達成と制度の改善に向け、「改善プロジェクト会議」において、制度全体の仕組みづくりや地域における事務手続き、行政の支援体制を柱に検討を進めることとします。

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	門司区役所	まちづくり推進課
連絡先	331-1881	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組みの方針	地域活動の促進
	主要施策	市民主体の地域づくりの促進

関連計画	
事業期間	平成17年度
経費区分	重点経費

-3-(1)-

<b>事業名</b>	<b>区の新たな魅力づくり事業(門司区)</b>
------------	--------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	「芸術の担い手支援、文化の根づくり、芸術による地域振興」を目的として、廃校(旧庄司小学校)を活用して、芸術家、工芸家又はそれを目指すものに創作活動と作品発表の場を提供する。また、北九州市の特色ある美術工芸の流れを創出し、文化面だけでなく、より質の高い、産業や観光を含めた都市の品格形成に寄与する。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民主体の地域づくりの促進	成果	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	年度					計画変更理由
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
実施状況	当初計画	美術・工芸分野での人材育成 73人(累積)	80人(累積)	90人(累積)	100人(累積)	110人(累積)	計画変更理由
	現状	美術・工芸分野での人材育成 73人(累積)	80人(累積)	90人(累積)	100人(累積)	110人(累積)	
	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成21年度	目標			
	美術・工芸分野での人材育成	計画	73 人	年度	平成25年度		
芸術家、工芸家又はそれを目指すアーティストに対し、その創作活動に専念できる環境づくりを行うため、門司港アート村の適正な管理運営に努める。	実績	73 人	内容	110人			
芸術による地域振興、門司港アートを全国発信するための展示会の開催、市民講座等の実施	計画	15,000 人	年度	平成25年度			
門司港アート村展(門司港地区)、門司港アート村東京展(東京)、門司港アートクラフト展(門司港地区)等を開催し、アーティストの資質の向上を図るとともに、門司港アートを広くPRし、芸術活動による地域振興を図る。また、市民参加型の芸術・文化活動を推進するため、今年度よりアカデミックな講座を開講する。	実績	17,912 人	内容	20,000人			
	達成度	119.4 %					
コスト	事業費	8,000 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)				
	うち一般財源	8,000 千円	9,300 千円				
単年度計画	(この欄は空欄)						

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 21年度は、美術・工芸分野での人材育成を図る取り組みとして、その創作活動に専念できる環境づくりを行うとともに、各種展示会の開催、市民向けのアカデミックな講座を実施し、アーティストの資質の向上、芸術による地域振興を図り、計画と同数の人材育成、計画以上に芸術・文化活動の推進を行うことができた。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	21年度は、美術・工芸家分野での人材育成、展示会の開催、市民講座の実施等により、門司港アートの認知度が全国的に高まるとともに、アーティストが展示会で受賞するなど、アーティストのレベルの向上が図られた。また、展示会の開催、市民講座の実施等で施策の目標である「芸術の担い手支援、文化の根づくり、芸術による地域振興」が十分に図れた。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	現在は、官民共同の実行委員会で運営を行っており、民間のアイデアを取り入れ、経済的な運営を行っている。今後は、管理運営面で効率性を図るとともに、芸術活動による地域振興策において、より経済性を高めていく必要がある。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	人材育成、芸術活動による地域振興を図っていくためには、継続的かつ計画的な取り組みが必要であり、年度の達成状況を見ながら今後も取り組みを継続する必要がある。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	3	現在のところ、官民共同の実行委員会で運営を進めており、今後も市が関与していくことが適当だと考えている。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	本事業は施策に対する有効性も高く、「芸術の担い手支援、文化の根づくり、芸術による地域振興」を図っていく上で重要な事業であり、これからも目標の達成に向けて着実な取り組みを進めていくことが適当だと考えている。 また、地方から文化発信を行い、本市の文化的風土を確立させるために、今後は、活動を先鋭化し、他にない美術工芸分野での次世代の人材を育成する(人材育成機関としての充実)必要がある。



# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	総務市民局	小倉北区まちづくり推進課
連絡先	582-3335	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組みの方針	地域活動の促進
	主要施策	市民主体の地域づくりの促進

関連計画	
事業期間	平成17年度
経費区分	重点経費

-3-(1)-

事業名	区の新たな魅力づくり事業(小倉北区)
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	小倉都心部において、商店街、大型商業施設、NPO法人、地元まちづくり団体等と協働でイベント等を実施し、都心部の回遊性や魅力を高め、賑わいを創出する。また、歴史・文化を活かしたまちづくりを推進し、小倉の新たな魅力づくりを図る。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民主体の地域づくりの促進		成果	

目的実現の為に実施する内容	実施工程						計画変更理由	
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	当初計画	小倉イルミネーション2009、小倉deフリマ、小倉祇園太鼓体験おもてなし太鼓、北九州市長杯ストリートダンスバトル	-	-	-	-		
	現状	小倉イルミネーション2009、小倉deフリマ、小倉祇園太鼓体験おもてなし太鼓、北九州市長杯ストリートダンスバトル	小倉イルミネーション2010、小倉deフリマ、小倉祇園太鼓体験おもてなし太鼓、小倉祇園太鼓普及PR事業、小倉祇園活用地域活性化計画作成、We love小倉協議会(仮称)との協働事業	-	-	-		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標	
	小倉都心部の回遊性や魅力を高め、賑わいを創出するイベント等を開催する。				計画	各種イベント等の実施	年度	平成21年度
	小倉都心部の主要な場所を広く会場として利用し、小倉の街の特性や伝統を活かした魅力あるイベント等を実施する。				実績	計画どおり完了	内容	イベント等を計画どおり完了し、回遊性の向上、賑わい創出を目指す
					達成度		年度	
コスト						事業費	12,180 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)  8,685 千円
						うち一般財源	7,650 千円	
単年度計画	(この欄は、単年度計画の進捗状況を確認するための欄であり、単年度計画が完了した場合は、この欄を空白とする。)							

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	当初の計画どおり、「小倉イルミネーション2009」、「こくらdeフリマ」、「小倉祇園太鼓体験おもてなし太鼓」、「北九州市長杯ストリートダンスバトル」を開催し、小倉都心部における賑わいの創出や、伝統文化の普及を行うことが出来た。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性	4 : 高い 3 : やや高い 2 : やや低い 1 : 低い	4	小倉駅周辺、紫川周辺、小倉城周辺、勝山公園大芝生広場など、小倉都心部の主要な場所を広く会場として利用することで、回遊性を高めることが可能となった。また、幅広い年齢層を対象としたイベントを開催することで、より多くの賑わいを創出することが出来た。
	経済性・効率性		4	イベント等を民間企業等と共同開催、あるいは、企業等から協賛金を募ることによりコストの削減を図っている。
	適時性		4	当事業は、単年度で開催するのではなく、継続的に開催することで、市内のみならず市外へのPR効果を発揮すると考えられる。そのため、今後も引き続き、小倉の街の持つ特性を活かした事業を実施し、回遊性の向上及び賑わいの創出を図る。
	市の関与の必要性		4	経済状況が厳しい昨今、都心部の回遊性を高め、賑わいを創出できるようなイベントを、民間団体だけで開催することは、現状では困難であり、行政のサポートを必要としている。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ウ	今後も引き続き、小倉都心部の回遊性の向上、及び賑わいの創出を目的として事業を実施するが、事業内容については随時見直しを行い、より効果的なイベント等の実施を目指す。

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	小倉南区	まちづくり推進課
連絡先	951-4111	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組みの方針	地域活動の促進
	主要施策	市民主体の地域づくりの促進

関連計画	
事業期間	平成17年度
経費区分	重点経費

-3-(1)-

事業名	区の新たな魅力づくり事業(小倉南区)
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	小倉南区の特色を活かし、地域の魅力を発信する事業を行うことで、市民の愛郷心の向上と小倉南区ブランドの構築を通じた北九州市の魅力を発信するもの。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民主体の地域づくりの促進	成果	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由	
		当初計画	冬はなび集客 4,000人 新鮮小倉南区朝市PR事業 4回	冬はなび集客 4,500人 新鮮小倉南区朝市PR事業 4回	冬はなび集客 5,000人 新鮮小倉南区朝市PR事業 4回	冬はなび集客 5,500人 新鮮小倉南区朝市PR事業 4回		-
現状	冬はなび集客 4,000人 新鮮小倉南区朝市PR事業 4回	冬はなび集客 4,500人 新鮮小倉南区朝市PR事業 4回	冬はなび集客 5,000人 新鮮小倉南区朝市PR事業 4回	冬はなび集客 5,500人 新鮮小倉南区朝市PR事業 4回	-			
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標	
	冬はなび集客				計画	4,000 人	年度	-
	平尾台で冬はなびを開催し、平尾台への集客増に努めた。				実績	5,000 人	内容	平尾台の魅力アップに寄与する。
	新鮮小倉南区朝市PR事業				計画	4 回	年度	-
小倉南区の旬の農産物や海産物を生産者と連携しながらイベント会場や小倉駅ジャム広場で紹介し、地産地消の推進を行うと共に、小倉南区の魅力PRに努めた。				実績	4 回	内容	朝市を行い、小倉南区の魅力アップに寄与する。	
達成度				達成度	125.0 %			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]				事業費	6,600 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
					うち一般財源	6,600 千円	3,945 千円	
単年度計画	(この欄は、単年度計画の進捗状況を確認するための欄であり、単年度計画の進捗状況を確認するための欄です。)							

**【事業の実施結果・進捗状況の確認】**

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	冬はなび集客(平尾台集客)および新鮮小倉南区朝市PR事業については、当初の計画どおり100%実施できた。
------	-------------------------------------	--

**【事業の再検証】**

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	冬はなびを平尾台で開催することで平尾台を観光スポットとして有効にPRすることができた。また、小倉南区の地元産物の振興に役立った。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	3 観光課や地産地消課と連携し、より効率的に事業が実施できないか検討したい。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4 基本計画を実現するためには、今後も本事業を積極的に実施していくことが必要と考える。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	3	冬はなびについては、実行委員会で実施し、市は構成団体として積極的に支援した。新鮮小倉南区朝市PR事業については、現在のところ他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当だと考える。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は施策に対する有効性も高く、小倉南区の魅力を発信する上で、大変重要と考える。今後も継続して実施していくことが適当だと考える。

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	若松区	まちづくり推進課
連絡先	761-5321	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組みの方針	地域活動の促進
	主要施策	市民主体の地域づくりの促進

関連計画	
事業期間	平成17年度
経費区分	重点経費

-3-(1)-

事業名	区の新たな魅力づくり事業(若松区)
-----	-------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	若松区は、「いきいきと暮らせるまち 誇りのもてるまち若松」を基本目標に「若松区まちづくり方針」を策定し、「地域の魅力を活かしたまちづくり・顔づくり」、「安全・安心で暮らしやすいまちづくり」、「いきいきと輝きうるおいのあるまちづくり」、「人づくり」の4つの項目を柱に継続してまちづくりを進めています。このような中、若松のシンボルである高塔山を活用した新たなにぎわいづくりや中心市街地における賑わいづくり、環境首都を目指したまちづくり、さらに、今後、地域の核となって活躍する人材の育成を図ります。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民主体の地域づくりの促進	成果

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度 植樹数 300鉢 集客数 3,000人	平成22年度 植樹数 300鉢 集客数 3,000人	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由 イベントの好評により集客見込みを増加した。		
		現状	植樹数 300鉢 集客数 3,000人	植樹数 300鉢 集客数 4,000人						
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		"あじさい"の高塔山への植樹数						計画	300 鉢	年度
		"あじさい祭り"の挿し木教室参加者、若松区内の小中学校並びに「高塔山ミュージック&ふるさとの恵みフェア」の際に募集した市民ボランティア(あじさい里親)に育てていただいた"あじさい"を「あじさい里親」が中心となって高塔山に植樹します。「日本一のあじさいの山」を市民と一緒に目指します。						実績	400 鉢	内容
		高塔山秋の賑わいづくりイベント集客数						計画	3,000 人	年度
コスト	高塔山の秋の魅力を満喫してもらうために、音楽を中心としたイベントを実施します。その際に食のイベントも同時に実施し若松の農水産物をPRします。						実績	5,000 人	内容	
	A時点 - B時点 - C時点 22.7月(21年度・執行額)						事業費	6,751 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
単年度計画							うち一般財源	6,751 千円	13,050 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	区内の小中学校、また区民の協力とともに実施することで、高塔山を「郷土の誇り」「愛着のもてるふるさとの山」として区民が郷土愛を育むことに寄与することができました。 春の桜、初夏の"あじさい"だけでなく、穏やかな気候の中で、心地よい音楽とともにノンビリと過ごす秋の高塔山の魅力を来場者が感じ、郷土の誇る高塔山の魅力アップに寄与することができました。また、「ふるさとの恵みフェア」により、若松の農水産物をPRすることができ、その相乗効果により若松区のPRとなりました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、区の特徴を生かし、区民が誇れる魅力を創出する事業・全市的に実施する事業に加え、区の視点から事業を補完することで相乗効果が期待できる事業・区民に最も身近な区役所が、地元や関係部局等との調整を行うことで、より高い効果を得ることができる事業であるため、有効性は非常に高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	本事業はボランティア等区民との協働において実施しています。また民間に委ねられるものは極力委託しているため、さらに経済性や効率性を高めていくことは非常に困難と考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	施策実現のためには、今後も本事業を積極的に実施していく必要が高いと考えます。中でも高塔山の魅力づくり事業は、「若松区民が誇れるふるさとの山・日本一のあじさいの山」を実現するために、息の長い取り組みが必要であると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	4	区役所は、地域住民の最も身近な行政機関として、日頃から業務を通じて地域情報に触れ合う機会が多く、区民ニーズの的確な把握に努めています。区が、創造性や独自性を発揮し、区の特徴を活かした"まちの魅力づくり"の新たな展開に向けて、区民と協働して事業に取り組むことにより、豊かで住みよいまちづくりを推進するためには他の実施主体は考えられず区が適当だと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	若松区の魅力づくり事業については、10年後を見据えた「若松区のみちづくり方針」や「北九州市基本構想・基本計画」をベースの考え方として持ち、当該年度及び将来的な若松区関連トピックスを十分考慮に入れた上で、継続事業・まちづくりの新たな展開に向けた事業・各局の事業を補完することで効果が高くなる事業など、若松区のみちづくりを進展させるために効率的・効果的な事業を年度ごとにセレクトして実施しています。 今後も、地域だけでは解決し難い課題や市レベルでは十分にニーズに対応できないような区レベルの課題に対し、区自らが区民との協働のもと、その解決に取り組むことが重要だと考えます。

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	八幡東区役所 まちづくり推進課
連絡先	671-0801

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組みの方針	地域活動の促進
	主要施策	市民主体の地域づくりの促進

関連計画	
事業期間	平成17年度
経費区分	重点経費

-3-(1)-

事業名	区の新たな魅力づくり事業(八幡東区)
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	八幡東区の区民、団体との協働により、区の特徴を活かした、区民が誇れる事業を展開し、八幡東区のにぎわいづくりを実施します。具体的には、「第4回皿倉山健康ウォーク」、「八幡東区イルミネーション」及び「新緑ウィーク」の3事業を展開していきます。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民主体の地域づくりの促進	成果		

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	皿倉山健康ウォーク 八幡東区イルミネーション 皿倉山新緑ウィーク	皿倉山健康ウォーク 八幡東区イルミネーション 皿倉山新緑ウィーク 八幡東竹灯まつり 皿倉山ラブリウィーク	-	-	-		-		
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		来場者数						計画	35,000 人	年度	平成21年度
		区の特徴を活かしたにぎわいづくりを実施するため、たくさんの方に訪れていただくことを目標としています。「新緑ウィーク」では「皿倉山健康ウォーク」とあわせて35,000人を見込んでいます。						実績	34,200 人	内容	来場者 35,000人
								達成度	97.7 %	年度	
コスト							事業費	7,999 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	7,599 千円	4,170 千円		
単年度計画	(この欄は、単年度計画の進捗状況を確認するための欄です。)										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 来訪者数について、概ね目標の数値を達成できています。数年かけて八幡東区の知名度を上げていくための21年度での取り組みが履行できていると考えます。

【事業の再検証】

評価	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	八幡東区の皿倉・東田エリアの魅力を訪れた多くの方に知っていただくことが出来たと考えています。	
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	3	複数の事業のPRをまとめて実施することを検討するなど、さらに経済性を高めていく必要があると考えます。
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	八幡東区のにぎわいづくりや活性化のため、今後も本事業を実施していく必要が高いと考えます。
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	本事業のうち「八幡東区イルミネーション」の一部については、事業主体を地域団体へ移行できましたが、他の事業については、当面は市の関与をなくすことはできないと考えます。	
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ア	本事業は八幡東区のにぎわいづくりや活性化に対する有効性も高いため、今後も目標の達成に向けて着実な取組みを進めていくことが適当であると考えます。具体的には既存の事業については、事業コストの削減に取り組むとともに、さらなる来訪者やリピーターを増加させるよう目新しい企画を付け加えていく必要があります。また、新たなターゲットを対象とした新規事業を模索し、実施していく必要もあります。	

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	八幡西区役所	まちづくり推進課
連絡先	642-1441	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組みの方針	地域活動の促進
	主要施策	市民主体の地域づくりの促進

関連計画	
事業期間	平成17年度
経費区分	重点経費

-3-(1)-

事業名	区の新たな魅力づくり事業(八幡西区)
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	八幡西区の貴重な歴史的遺産である長崎街道沿いを中心に、黒崎宿をはじめとする地域固有の歴史や文化を取り入れたハード、ソフト両面での新たな魅力づくりに取り組み、回遊性の高い"人が集い、賑わうまちづくり"を推進します。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民との協働を推進できる市役所づくり	成果

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由
		当初計画	「長崎街道」の歴史と文化を活かしたまちづくり 集客人数 67,000人	集客人数 67,300人	集客人数 67,400人	集客人数 67,500人以上	
	現状	「長崎街道」の歴史と文化を活かしたまちづくり 集客人数 67,000人	集客人数 67,300人	集客人数 67,400人	集客人数 67,500人以上		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標
	イベントへの年間集客人数				計画	67,000 人	年度
	年間を通じたイベントの実施により、集客力の高いまちづくりを進めます。イベント開催を通じてまちの魅力を感じてもらい、イベント開催日以外でも、来街者でにぎわうまちづくりを進めます。				実績	67,200 人	内容
					達成度	100.3 %	集客人数 67,500人以上
				計画		年度	
				実績		内容	
				達成度			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月(21年度・執行額)	事業費				10,834 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)
		うち一般財源				10,834 千円	
単年度計画							

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	当初の計画どおり、「曲里の松並木 電照松」、「曲里の松並木 電照松・街道まつり」、「黒崎宿情報かわらばん(案内板設置)」、「黒崎よさこい祭り」、「筑前黒崎宿おもしろ発見スタンプラリー」を開催(実施)し、ハード・ソフト両面から区の新たな魅力づくりと賑わいのあるまちづくりを推進しました。特に、集客力向上に対しては、「電照松・街道まつり」と「電照松(和風電飾)点灯式を同時に開催したり、八幡西文化連盟などの市民グループの協力を得てイベント内容の拡充を図ったりするなど効果的に成果をあげることができました。
------	-------------------------------------	--

## 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	季節に応じたイベントの実施により、年間を通じ継続的に集客人数を確保することができ、事業の有効性は高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	イベント開催日や実施体制の強化などの工夫により、前年度よりも高い効果をあげることができ、高い経済性・効率性で実施していると考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	施策実現のため、今後も本事業を積極的に実施していく必要が高いと考えます。また、平成24年には長崎街道筑前六宿開通400周年を迎えることから、計画的で着実な取り組みを進めていく必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。	3	サンセット方式を一部取り入れ、活発な市民活動を促進する環境づくりを整えたいと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	長崎街道をテーマに、ハード・ソフト両面による区の新たな魅力づくりに取り組んでいくことは、「市民との協働を推進できる市役所づくり」を図っていく上で重要なことと考えています。一方で、平成24年夏には黒崎副都心「文化・交流拠点地区」がオープンすることから、この新規地区と長崎街道をリンクさせた事業展開が必要になるものと考えます。

# 事業評価票

<b>平成21年度実施事業</b>	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	戸畑区役所 まちづくり推進課
連絡先	871-1501

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	活発な市民活動を促進する環境づくり
	取組みの方針	地域活動の促進
	主要施策	市民主体の地域づくりの促進

関連計画	
事業期間	平成17年度
経費区分	重点経費

-3-(1)-

<b>事業名</b>	<b>区の新たな魅力づくり事業(戸畑区)</b>
------------	--------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか、	<p>「自分たちの住みたいまちを、自分たちで創りあげていく」という基本方針のもと「魅力ある良好な地域コミュニティづくり」や、「地域における花や緑の創出」を推進するもの</p> <p>ガーデニング物語事業・・・市民の自主的なガーデニング活動の促進を行うため、ガーデニングに取組む個人、団体間の情報交換やネットワークを作る場を提供する「とばたガーデニングクラブ」を組織化する。</p> <p>九州工業大学から夜宮公園の一角には、安川・松本家が戸畑で偉業を果たした100年前と変わらぬ緑豊かな街並みが広がり、「文教のまち」戸畑区の大きなシンボルとなっています。これらを戸畑区の財産として守っていくとともに、区内全域で「文教のまち」にふさわしい、落ち着いた風格のある街並みづくりを進めることによって、文教・住宅地区としての戸畑区のブランド力の向上を図ります</p> <p>「安川・松本家と戸畑の百年」記念事業・・・平成21年度から24年度にかけては九州工業大学、明治学園、旧松本家住宅が建設から100周年を迎えることから「安川・松本家と戸畑の百年」記念事業を実施し、文教のまちとしての戸畑区のブランド力の向上を図ります。(平成21年度は九州工業大学が創立100周年を迎える)</p>			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民主体の地域づくりの促進	成果	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由	
		当初計画	とばたガーデニングクラブ創設 「安川・松本家と戸畑の百年」記念事業(九工大)	とばたガーデニングクラブの支援及び新規の会員増(目標団体35)	とばたガーデニングクラブの支援及び新規の会員増(目標団体38)	とばたガーデニングクラブの支援及び新規の会員増(目標団体41)		とばたガーデニングクラブの支援及び新規の会員増(目標団体45)
現状	とばたガーデニングクラブ創設 「安川・松本家と戸畑の百年」記念事業(九工大)	とばたガーデニングクラブの支援及び新規の会員増(目標団体35) 安川・松本家と戸畑の百年記念事業(明治学園) 戸畑祇園大山振興会のホームページ作成の助成(単年度)	とばたガーデニングクラブの支援及び新規の会員増(目標団体38)	とばたガーデニングクラブの支援及び新規の会員増(目標団体41)	とばたガーデニングクラブの支援及び新規の会員増(目標団体45)			
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標
	とばたガーデニングクラブの創設				計画	25 団体	年度	平成25年度
	区レベルでガーデニングによるまちづくりを行っており、これまでの取組みにより、市民のガーデニングの場の基盤がほぼ整備されたところである。これからはさらに、市民が主体的にガーデニング活動に取り組むための「しくみづくり」として、「とばたガーデニングクラブ」を創設し、ガーデニングに取り組む人・団体間の情報交換やネットワークを作る場の提供及び地域による自立的なガーデニング活動を推進する				実績	28 団体	内容	45の団体に会員として参加してもらう。
					達成度	112.0 %		
					計画		年度	
実績		内容						
達成度	-	%						
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月(21年度・執行額)	事業費				6,960 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度) 7,500 千円	
うち一般財源				6,960 千円				
単年度計画								

**【事業の実施結果・進捗状況の確認】**

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	ガーデニングクラブについては、28もの団体が会員(個人含め345名)としてクラブに参加している。
------	-------------------------------------	--

**【事業の再検証】**

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	未利用市有地を花壇として整備し、地域に親しまれる景観を築くことができた。また、ガーデニング活動を通して、地域交流を促すことができた。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	市が首尾一貫事業を行なうのではなく、地域が自主的に行う事業のため、低いコストで高い効果を上げている。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	道路残地など未利用市有地が放置され、荒廃し、まちの景観も損なわれる恐れがある。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	4	事業の性質から、市が地域の橋渡し役として個人や団体を繋げ、ガーデニングの輪を広げることが必要である。
今後の方向	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	現状のまま、ガーデニング活動を側面的に支援をしながらも、よりいっそう地域の交流を促進していくことが適当である。さらに、とばたガーデニングクラブの会員数を増加させ、戸畑区全体のガーデニングに対する機運を高めていく。 次年度は、戸畑祇園大山笠行事を効果的にPRし、戸畑区のまちづくりやにぎわいの創出につなげていくために、戸畑祇園大山笠振興会に対してホームページの作成費用を助成するもの。